

分科会の記録 第1分科会 教育課程に関する課題

【提言1 研究主題】

「ふるさと『さが』を協働でつくる個性と創造性に富む人づくりを目指した教育課程」

～佐賀市の教育施策に基づく小中学校の取組～

【提言者】佐賀市教頭会 佐賀市立開成小学校 西原 宏一

【協議の柱】

市町の教育施策に基づいた各学校の特色ある教育課程の実際と学校間での情報共有について。

【協議内容】

- ・ステップ表では、小中間での意識の差がある。実際には、具体的な組織づくりとしてコミュニティースクール（小中合同）で校内研究を行い、校務の内容毎にたて割りで連携を図っている。しかし、授業づくりは小中間において教科担任制等の違いもあり、連携した取組は難しいと感じている。
- ・教育課程編成に対する教頭の役割は、市町によって全然違う。教育課程については教務が全てを担っており、教頭があまり関わらないこともある。小中一貫校では、教育課程を教頭と教務で編成しているケースもある。
- ・小中一貫校のよさを知らない、よさを言えない職員がいる。一貫校のよさについて職員に問いかけることで、小中の異文化理解が進む。
- ・小中一貫校について育友会への理解を促進させるために、学校からの情報発信を行っている。
- ・唐津市では「生き生き学ぶ唐津っ子事業」を推進し、カリキュラムに生かしている。
- ・市町の規模によって、教育課程等の伝え方が違う。佐賀市では一斉に伝えられている。中学校区の小中の教頭がつながり、教育課程やその他の情報を共有している。小城・芦刈は、学校の独自性が強い。予算の付き方も市町によって違う。

【指導助言】学校教育課 主幹 浦 貴仁 氏

- ・佐賀市の発表である「教育課程」においては、文言としては表れていないが、カリキュラム・マネジメントで説明することができる。
- ・カリキュラム・マネジメントで大切なことは、「社会に開かれた教育課程」であること。校長・副校長・教頭は、学校のグラウンドデザインを地域に発信すべきである。佐賀市は、よい学校づくりはよい社会づくりとの考えがある。
- ・カリキュラム・マネジメントとは何か、先生方に理解してもらうことが大切である。何のために取り組んでいるのかを考えて、マネジメントしていく必要がある。教頭（学校のリーダー）として、教育施策を意識しながら、地域の人・物などの価値観を大切にしながら改善していかねばならない。佐賀市は、何のための活動なのか意識している点は良い。
- ・カリキュラム・マネジメントは子供にも必要なことである。「いじめ0宣言」でのリーダー研修会は、子供のカリキュラム・マネジメントである。
- ・1年生担任が幼保こ小の連携に向けて動画を見ながら学んでいることや、「いじめ0宣言」も良い。
- ・教頭として、評価をどのようにしていくか、どのように働きかけるかが課題としてある。